

第 200 期定時株主総会 質疑応答要旨

2020 年 6 月 20 日（土）に開催しました当行第 200 期定時株主総会において頂戴しました主なご質問および当行の回答要旨を以下のとおり紹介いたします。

1	
質問	コロナ問題で今後世の中の流れが変わると思うが、福井銀行はどのような対策を考えているのか。
回答	<p>ここ 3 ヶ月ほど、新型コロナウイルス感染拡大への経済対策として、お客さまへの資金支援に力を入れてきた。今後、資金支援はもちろん、事業継続支援にもしっかり取り組んでいく。</p> <p>環境面や業務面も変わってくると思う。当行ではテレビ会議やテレワークの利用が大きく増えている。世の中では、契約書の印鑑を不要とすることやペーパーレスの流れが一段と進むのではないかと考えており、これにあわせた改革も必要と考えている。</p> <p>また、福井県は 3 年後に北陸新幹線開通を控えている。それにあわせて福井県の経済効果が最大限発揮されるように福井駅前再開発なども含めて支援していく。</p>

2	
質問	<p>福邦銀行と包括提携しているがもう少し具体的に教えてほしい。</p> <p>将来的には合併までいくのか、あるいは互いに協力してコストを下げることなのか。</p>
回答	<p>背景としては金融機関を取り巻く経営環境が非常に厳しいということがあり、合理化できるところを一緒にできないかということから始まった。</p> <p>業務提携についてはかなり具体的なことが進んでいる。</p> <p>資本提携について今検討していることは、福井銀行、福邦銀行の 2 ブランドで営業し、それぞれのお客さまを支援していくこと、その裏側で連携することで営業面をプラスにしていくことである。</p> <p>合併するかについては今の時点では決まっていない。</p>

3	
質問	2016 年から 2019 年まで純利益が右肩下がりであるが、これについてどう考えているのか。
回答	<p>銀行の収益については経営努力だけではどうしようもない外部要因がある。</p> <p>2016 年 2 月にマイナス金利が導入され、そこから金利水準が大きく下がっている。</p> <p>年々総資産が増えており、通常ならば収益が増えているはずであるが、それを</p>

	<p>上回る金利の低下となっており、金融機関は非常に厳しい経営環境の中にある。そうした中で、当行は、比較的金利水準の高い中小企業向けの融資に力を入れて収益の確保にも努めてきた。</p> <p>また、経費面については、有人店舗数を16店舗削減してコストを減らすとともにそこで余剰となった人員を営業に注力させている。</p> <p>さらに、人口減少が進む福井において、福井のマーケットをしっかりとさせていくため街づくり、駅前再開発をサポートしながら、当行の経営基盤である地元経済の活性化にも注力している。</p> <p>短期的な収益を目指すのではなく、中長期的に安定した収益態勢を構築することが頭取の責任と考えている。</p>
--	---

4	
質問	<p>投資信託を販売する行員について、人材育成にどのような取り組んでいるのか。さらに、ノーロード投資信託の取扱いが増えていないが、今後の方針について聞きたい。</p>
回答	<p>投資信託の販売体制については、当行として今改革をしているところである。よりお客さまに寄り添った販売体制をつくるため、市場の知識をしっかりと持たせ、それをベースとしてお客さまと相談できるようにしていく。</p> <p>ノーロード投資信託など商品についても、お客さまのためになるものを積極的に採り入れていく。</p>

5	
質問	<p>社外取締役是三屋氏を選任した理由は何か。</p>
回答	<p>スポーツ選手というイメージはあると思うが、会社の社長の経験があり、様々な経済活動を行っている方である。</p> <p>また、東京の経済界にも人脈を持っており、東京の様々な会社の情報を福井の我々に伝えてくれている。</p> <p>経営者としての力は十分に感じており、社会の中でしっかりと活躍されている女性の方ということで選任している。</p>

(補足)

三屋社外取締役の略歴については、株主総会招集通知39ページをご覧ください。

上記の総会における回答にもあります通り、三屋社外取締役は企業経営にも自ら、あるいは日本有数の大企業の社外取締役として関わりながら、日本の政治・経済の中心である東京を軸にして幅広い人脈と経験・知見を培われています。

当行取締役会においても、そうした広い視野、バランスのとれた経営感覚からの意見・助言を受けており、当行が企業理念の実現に向けて企業活動を行っていくうえで貴重な監督を受けております。

以上